

口腔医学

歯学から口腔医学へ

口腔医学の学問体系の確立に向けて

超 高齢社会が進行する我が国において、高齢者の健康保持やQOLの向上に大きな役割を果たす口腔疾患の予防や診療、口腔ケアを実践できる歯科医師の必要性は今後急速に高まるものと予想されます。

近年、糖尿病と口腔病変、歯周病と急性心筋梗塞との関係など、口腔領域の疾患と多くの全身疾患との関連性が明らかになる中、何らかの疾病に罹患していることが多い高齢者の口腔疾患を診断・治療するためには、口腔に関する高度な専門知識の修得とともに、全身に関する基本的な一般医学教育の履修が不可欠となっています。

このような社会環境や医療環境の変化を踏まえ、これまでの単に歯とその周囲組織を対象としていた従来の歯学の概念を改変し、口唇、口腔粘膜、舌、唾液腺、口蓋、顎、顎関節など、口腔を身体の一つの臓器と位置づけ、歯学教育の高度専門化とともに一般医学教育を充実させた「口腔医学」の学問体系を確立することは、次代を担う口腔専門医を育成するうえで大変重要なことです。全身との関係を踏まえて口腔の健康管理を実践できる口腔専門医の育成は、国民の健康維持・増進を考えるうえで軽んずることができない喫緊の課題であり、将来その重要性はますます高まるものと思われます。歯科医学、歯科

8 大学連携事業

文部科学省・平成20年度戦略的大学連携支援事業の選定を受け、本学を代表校として、福岡大学、九州歯科大学、

医療の将来を見据え、社会の多様なニーズに適切に対応するためにも、口腔医学の学問体系を確立することが必要なのです。

昭和大学、鶴見大学、神奈川歯科大学、岩手医科大学及び北海道医療大学の全国7大学と連携し、「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」に取り組んでいます。この事業では、平成22年度からTV授業システムを利用したTV配信授業「医歯学連携演習」を実施するほか、一般医学・基礎医学のモデルシラバスの作成等を行って、口

腔疾患と全身疾患との関連について十分な知識を持ち、口腔疾患の予防・治療ができる医療人の育成を図るとともに、国際口腔医学シンポジウムを開催するなど、国際的な視点から口腔医学の位置づけを確認しています。また、新聞に全面広告を掲載するなど、広く一般に口腔医学への理解を深める取組みも行っていきます。

新聞全面広告



国際シンポジウム



TV授業「医歯学連携演習」